

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	オーラ J
公演団体名	オーラ J

内容
<p>1) まずは聴いてみよう</p> <p>尺八について、構造や奏法などの簡単な説明をいたします。また、どのような音が出るのか少し演奏を聴いて頂きます。</p> <p>2) 本公演で共演する演目の指導</p> <p>本公演で共演する演目の説明と準備をします。尺八音楽の中にある自然の音の表現を解説する一方で、子どもたち自身の周囲にある自然の音を、自分たちはどの様に捉え、どのように表現するかを提起します。それらの表現を考えて道具(身近にあるもので、こちらで用意します)を使い発音し、それをどういった指示の時に、どういった演奏(行動)で表現すればよいか、具体的に説明します。</p> <p>3) 楽器の鳴らしかた解説。</p> <p>通常時は尺八の鳴らしかた体験(楽器体験)で、音が出る仕組みや、音を出すことの難しさを感じてもらう予定でしたが、エアリード楽器は未経験者では飛沫が飛びやすい状況になります。よって、コロナ対応版では子どもたち全体での尺八体験は行わず、奏者による吹き方の詳説や、尺八吹奏法の援用で、身近な物(コップやペットボトルなど)でも音が出せることを奏者が実演し、音の出る仕組みを解説します。</p>

タイムスケジュール(標準)
1 コマ 45-50 分×2 コマ
3.4 時限の 2 コマ実施を基本として調整するが、コマ数、開始時間、1 コマの長さなどは、参加人数・実施場所などに依拠しますので、事前に相談して決めます。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
主指導者 1 名
補助者 4 名

学校における事前指導
子どもたちには自然が発する音にはどんな音があるか考えてもらい、まずはその音を言葉で表現する場合、どの様に表現するかを考えてください。実際の公演では、風や雨の音を楽器代わりに道具で表現してもらって尺八と一緒に合奏しますが、弱い雨や強い雨など現象の強弱や、優しい風や冷たい風など表現のバリエーションについても考えてみてください。実際の公演では言葉の表現ではなく、楽器代わりに道具を使用しますが、事前に言葉でイメージすることで、発音するときのベースとします。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	オーラ J
公演団体名	オーラ J

演目
<ul style="list-style-type: none"><li>・楽器の解説(尺八や日本古来の管楽器などを紹介 20分)</li><li>・鹿の遠音 古典(解説込 10分)</li><li>・鶴の巢籠 古典(解説込 10分)</li></ul> 休憩(10分) <ul style="list-style-type: none"><li>・子供のためのポップスメドレー(10分)</li><li>・ソネット(I-Vより) 三木稔 作曲(10分)</li><li>・Doldrums IIIb ～尺八と聴衆のための協奏曲～ 山本和智 作曲 (児童・生徒との共演プログラム 20分)</li></ul>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者 3名 スタッフ 1名

タイムスケジュール(標準)
9:00 搬入・仕込・リハーサル、10:30-12:30 ワークショップ、13:30-15:00 本公演、15:00-15:30 撤去 16:00 退出 ワークショップを別日開催の場合は、12:00 搬入・仕込み・リハーサル、13:30-15:00 本公演、15:00-15:30 撤去 16:00 退出

実施校への協力依頼人員
イス、テーブル等の借用のために1名程度。

## 演目解説

日本の伝統楽器である尺八は、古くから、自然と一体となる音色を持ち合わせていました。このコンサートでは、日本の風土に即した、日本固有の音色を感じてもらいたいと思います。

形態は独奏から三重奏までの尺八演奏を主としますが、一部では篠笛などの他の伝統管楽器も使用します。尺八本来の持つ豊かな音色と、迫力のある演奏を三人の尺八奏者が演奏します。また、鑑賞の補助として視聴覚資料(プロジェクター使用)を用いた解説を併用し、コンサートをわかりやすく進行します。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

子どもたちには、「DoldrumsⅢb～尺八と聴衆のための協奏曲～」という曲に参加してもらいます。難しそうなタイトルですが、参加方法は簡単です。この曲はもともと観客が参加して、舞台上の尺八と一緒に演奏し、楽曲を作り上げる形式になっています。観客は自然(風雨)の音を、リコーダー・尺八などの管楽器や、紙・クリアファイルなどの身近なもので発生させて演奏に参加します。指揮者の指示、尺八の演奏に合わせて演奏しますが、どのような音を出すかは各奏者(聴衆)に委ねられます。

事前のワークショップにおいて指示の見方や、演奏の方法を説明いたします。演奏する楽器も、リコーダーやハーモニカなどが用意できる場合はそれらを使用します。用意が難しければクリアファイルや紙を使用します。高学年はリコーダー、低学年は紙など混合にしたり、希望者には尺八を吹いてもらうなど、色々な形態に合わせて参加していただけます。

## 児童生徒とのふれあい

ワークショップでの指導を通じてのふれあいの他に、時間が許されれば、司会者、演奏者によるトークや質問などを児童生徒との双方向で行ったり、楽器の材質による音色の聞き分けクイズなどの参加型ミニコーナー企画も行うことができます。

他に、学校側で時間的余裕があれば、個別に指導や質問を受ける時間も設定できます。